



第55回特別展

2025
2.22(土)
▶ 5.6(火・休)

貝に ぬま 沼る

Obsessed
with Shells

美しい殻で人々を魅了する貝。地球上では数万種が知られ、極めて多様性の高い生き物です。中でも日本列島は暖流と寒流双方の影響を受ける位置にあり、またたくさんの島嶼を有することから、世界的に見ても多くの貝類が生息する地域です。このような背景からでしょうか、日本では古来より多くの人が貝のとりこになり、学問としてその実態に迫ろうとしてきました。この特別展では様々な史料や標本をもとに、日本の江戸時代から現代までの貝類学の研究史とその成果をひもときます。歴々の研究者が貝に“沼る”とはどういうことなのか、この特別展で実感しましょう。

主な展示の紹介

1 江戸時代の日本で行われていた本草学としての貝類学と、同時期の西洋で行われていた日本の貝類の研究を紹介しします。

江戸時代の貝類学



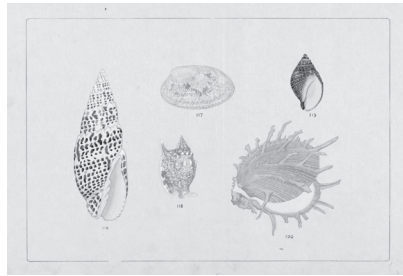
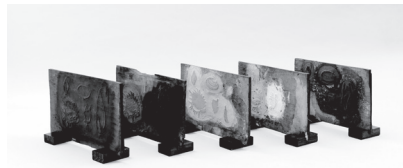
木村兼葎堂貝石標本
(大阪府指定有形文化財、写真は奇石標本)



多色木版画貝類図鑑「貝千種」の版木(上)と洋画家・西川純による原画(下)
(所蔵：美術書出版株式会社芸叫堂)

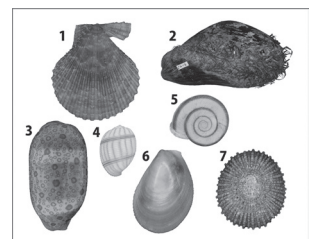
2 明治になり、西洋から近代貝類学が流入します。その受容に貢献したキーパーソンと彼らの活動を紹介します。

近代貝類学の幕開け

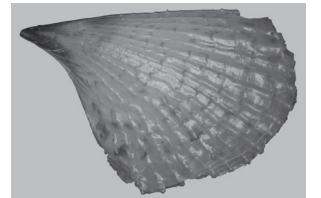


3 大正から昭和、そして戦後にかけて、貝類学は様々な学問分野に展開し、標本の収集は幅広い層に普及します。

貝類学のすそ野の広がり



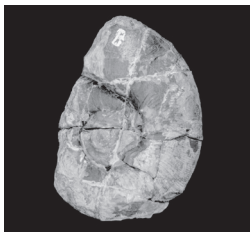
アマチュアコレクターが集めた日本列島の貝 1: ヒオウギガイ、2: エソヒバリガイ、3: ジャノメダカラ、4: オオベニシボリ、5: ムラヤママイマイ、6: ミカンオオハネガイ、7: カサガイ



採集の技術開発や研究が進んでもなお、なかなか見つからない「幻の貝」(ビードロタイラギ)

4 新しい技術を使った現代の貝類学の様々な研究手法とその成果を解説します。

現代貝類学の最前線



フォトグラメトリ技術で3次元データ化したアンモナイト(ゴドリセララス・イズミエンセ)

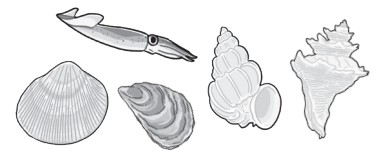


5 あなたも貝の魅力にとりつかれましたか? この沼に誘いすべく、貝類学研究への様々な入口を紹介します。

キミも沼ろう



スーパーマーケットで見つかるちょっと変わった貝(カガミガイ)



関連イベント

特別展講演会

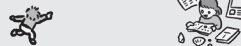
貝類学の最前線を拓いてきた研究者をお招きして、ご自身の研究と貝の魅力を語って頂きます。
3/9(日)、4/20(日)

ギャラリートーク

本特別展を担当した学芸員による展示解説を行います。
2/22(土)、2/23(日祝)、3/15(土)、3/16(日)、3/22(土)、3/23(日)、4/5(土)、4/6(日)
いずれも午後0時15分から30分程度

子どもワークショップ

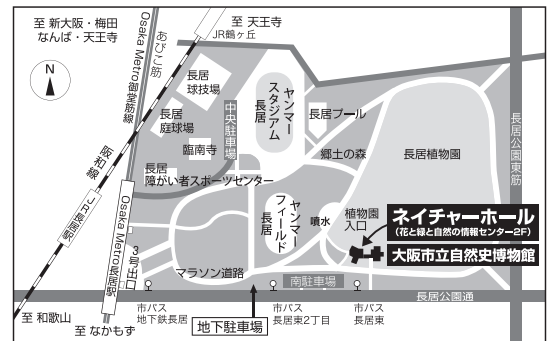
特別展で一番やさしい子ども向け行事です。ハカセやスタッフといっしょに展示を楽しみましょう。



※各イベントの詳細は決まり次第博物館ホームページ等でお知らせします。

観覧料(税込)	大人	高校生・大学生	中学生以下	
当日	500円	300円		※障がい者手帳など持参者(介護者1名を含む)、大阪市内在住の65歳以上の方は無料(要証明)。※30人以上の団体割引あり。※博物館本館(常設展)、長居植物園への入場は別途料金が必要です(セット券を除く)。
本館(常設展)とのセット券	700円	400円	無料	
期間内フリーパス	1,000円	600円		

【開館時間】2月22日~28日9:30~16:30(入館は16:00まで)・3月1日~5月6日9:30~17:00(入館は16:30まで) 【休館日】月曜日(ただし、月曜日が休日の場合はその翌平日)



アクセス Osaka Metro 御堂筋線「長居」駅下車3号出口・東へ800m
JR阪和線「長居」駅下車東出口・東へ1km

Osaka Museum of Natural History
大阪市立自然史博物館



ネイチャーホール(花と緑と自然の情報センター2階)
〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-23 貝に沼る | Q
TEL:06-6697-6221 FAX:06-6697-6225 https://omnh.jp/tokuten/2025shells/